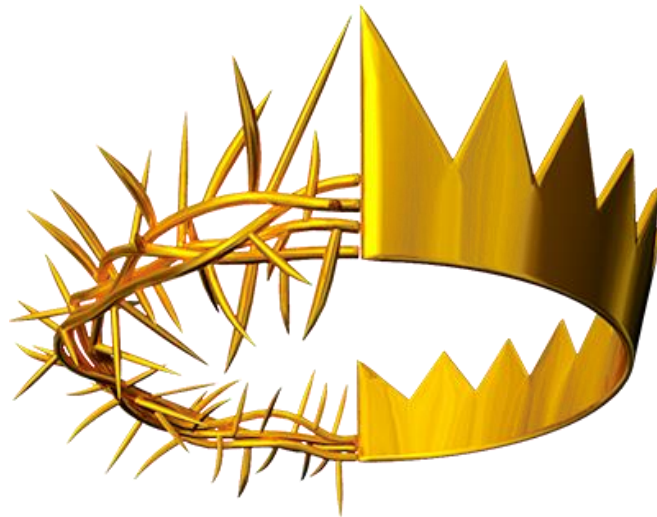


2022年 第1期 献金の勧め



セブンスデー・アドベンチスト教団
スチュワードシップ部

1月1日 「初め」は神のための場所

「初めに、神は天地を創造された」(創世記1:1)

聖書の最初には、先在についての詳細な説明なしに、神のおられる所を「初め」として描写しています。神を「初め」と位置づけることによって、神がすべてを始める方であると宣言しています。パウロの言葉では、主は「隅のかしら石」となっています。啓示者ヨハネにとって主は「アルファ」です。「神を第一に」というアピールは、厚かましくも、私たちが神を第一にするかどうか決めることができる、というように聞こえるかもしれません。しかし神を第一に、ということは、神がどんな御方なのかを認めることなのです。神は、初めの方、すべてを始める方です。私たちが神を第一にする時、私たちは、宇宙の序列に私たちの存在を合わせているのです。

「初めの方」「始める方」が、いるべきところにいなければ、私たちの存在はありません。私たちは、何も始めることができません。私たちに与えられているものが小さくても大きくても、それを取り扱う時、何を、誰を「初め」の場所に置こうとしているのでしょうか。今年を、あなたの人生最良の時にしたいと望むなら、神をすべての「初め」と認める選択をしましょう。

1月8日 完全な回復

「わたし、わたしが主である。わたしのほかに救い主はない」(イザヤ書 43:11)

神が私たちに最も必要な救いを与えてくださったので、私たちは最良のものを持って神を礼拝します。

ロジャーの父親は漁師で、母親は彼が小さい時に亡くなっていました。ある日、父親が漁に出ていたとき、マストの上から海の中に落ちて、行方不明になってしまいました。14歳の時にロジャーは孤児となり、ある晩は親戚の家で、他の晩は海辺の漁師の舟で眠り、時には木の上で眠りました。彼は畑から野菜を盗んで生のまま食べ、空腹を満たしていました。彼は厳しい現実から逃れるために、お酒を飲むようになりました。しかし、ある日ロジャーは福音に出会い、イエスを救い主として受け入れ、生活は変わりました。飲酒をやめ、職につき、起業し、幸せな家族を作り、家を買ひ、子どもたちを学校へ送り、そして人々に救い主を紹介するという人生の目的を持ちました。

素晴らしい神の救いに応えて、ロジャーは死ぬまで忠実に什一と諸献金をお返しして神を礼拝しました。私たちも什一と諸献金、また約束献金をもって礼拝する時、神の救いにふさわしい応答を示しましょう。

1月15日 超自然的な守り

「主はわたしをすべての悪い業から助け出し、天にある御自分の国へ救い入れてくださいます。」(テモテへの手紙2・4:18)

エリック少年は、毎晩のように悪夢に悩まされ泣きながら目を覚ましていました。彼の両親や家族は、しばしば屋根の上で何かが転がっているような音を聞いたので、家に悪霊がとりつき、悪霊が息子を殺そうとしていると、信じるようになりました。両親は、この超自然的な攻撃から息子を守るため、ヒンズー教の僧侶のもとに連れて行って儀式や祈願を受けさせ、息子が7歳になるまで髪の毛を切らないことを誓いましたが、何の効果もありませんでした。

万策尽きた両親は、聖書の神からの助けを求める決心をし、息子が寝る前に頭に手を置いて詩編 91 編を読み、祈りました。すると寝る前に祈った時は悪夢のない夜を過ごすことができることに気付きました。エリックは神を信じ、生涯をささげる決心をしました。

悪の攻撃は、多くの人々が経験している現実です。しかし、神にささげられたすべての人、すべてのものは、安全に守られます。今週も、什一と諸献金、そして約束献金をささげることを通して、超自然的な悪の攻撃に対する神の救いを感謝しつつ礼拝しましょう。

1月22日 生きるための教え

『園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう』(創世記2:16、17)

エデンの園で、人類は最高の教師である神によって、人生という迷路を旅するための指示書と共に創造されました。神は御言葉と聖霊を通して、私たちを正しい道に導かれます。

ある牧師が外国を旅行中、空港に行くためにタクシーを呼びました。運転手は、ナビを使用していませんでしたが、空港への行き方をよく知っている様子で運転を始めました。飛行機のチェックインが始まる時刻になり、心配になった牧師が運転手に声をかけると、彼は空港には行ったことがなく、友人から一度行き方を一度聞いただけだと応えました。運転手は案の定道に迷い、タクシーを停めて何回か電話で空港への行き方を確認しましたが、牧師が乗るはずだった飛行機のチェックインの時間は過ぎてしまいました。

人生という旅の最初から、神は常に私たちに最善のルートを示しておられます。その指示に従っていれば、最終目的地に至る正しい道を進んでいるのです。今週も、什一と諸献金、そして約束献金をささげることを通して、天来の教師の教えを思い起こしましょう。

1月 29 日 命の価

「イスラエルの人々のうちに生まれた初子は、人間であれ、家畜であれ、すべてわたしのものである。エジプトの国ですべての初子を打ったとき、わたしは彼らを聖別して、わたしのものとした」(民数記8:17)

出エジプトの時、十番目の災いでエジプト人のすべての初子が殺され、イスラエルの初子が神に守られた記念のしるしとして、イスラエルの親は初子を聖別し、一歳の小羊、またはキジ鳩二羽を感謝のささげ物としてささげました。

エリックは夏休みにビルの窓ガラス磨きのアルバイトをしました。固定された窓ガラス中央部分の外面を、命綱なしでわずか 12 センチの窓枠に立ち、片手で開いた窓の端を握り、もう一方の手で窓を磨かなければなりません。ある日、三階の窓を磨いていた時、突然の暴風によって握っていた窓が勢いよく閉じてしまいました。反射的に手を放した彼は、数秒間手を離したまま、地上 20 メートルの窓枠の上で命綱無しで立っていましたが、奇跡的に閉じた窓をつかむことができました。エリックは、神が命を守ってくださったことを感謝して、人生を聖別する決心をしました。

今週も、什一と諸献金、そして約束献金をささげることを通して、私たちを守ってくださる神への感謝を示しましょう。

2月5日 最高のコンサルタント

「あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか」(ルカによる福音書 14 章 28 節)

イエスは、すべてには出費が伴うこと、そして、あらかじめ計画を立てるべきことを教えられました。この人生の原則は、すべての面に適用されます。

ある若者が、近づいている結婚を楽しみにしていましたが、新婚家庭の家計について心配していました。独身時代、給料日前にお金を借りることなしに、次の給料日を迎えることがほとんどなかったからです。ところが驚いたことに、結婚 1 ヶ月後、3 ヶ月後、1 年後、夫婦の家計は十分足りていて、少し貯金に回すことさえできたのです。彼らは結婚準備カウンセリングで、牧師から家計の予算を立てる重要性について学び、神の助けによってそれを実践したのです。

私たちは、よく考えたり計画したりすることなしに、お金を使うよう迫られている時代に生きています。すべての資金の最高のコンサルタント、所有者、提供者である神は、愚かな浪費という落とし穴を避けるために役立つ有益な洞察を与えてくださいます。今週、私たちが、什一と約束献金で神を礼拝する時、私たちの生活の前面に、神と神の教えを置きましょう。

2月12日 愛と同情の代理人

「『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』」(マタイ 25:40)

聖書には、再臨が間近であると待望する人々が、いかに行動すべきかが記されています。羊と山羊の例え話は、愛と同情の行為が重要であることを強調していますが、もし私たちが再臨を待つ間、助けを必要としている人々に奉仕しないなら、神は裁きの時にこれらの最も小さい人々をいかに扱ったについて私たちに責任を問われます。

モーリシャスのボーバッサン教会は、コミュニティの中で、愛と同情の代理人となることを選びました。牧師が二人のホームレスとの出会いによって心を動かされ、どうすれば教会が彼らを助けることができるか尋ねました。「毎週一回、食事をいただけませんか」という彼らの求めに応じて、ボーバッサン教会は、二人のホームレスと地域の 25~40 人の人々のための食事提供を始めました。寄付金や食材の寄付、すべての年代の多くのボランティアによってこのミニストリーの働きは支えられ、今年で 25 年を迎えます。

今週、私たちが什一と定期的にささげる約束献金で礼拝することによって、他の誰かの祝福となる機会があるのです。

2月19日 受け取ったものを増やしてくださる

「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」(ヨハネによる福音書6章9節)

イエスがパンを増やした奇跡で、少年は自分のパンと魚を差し出しました。イエスはご自分に差し出されたものは何でも増やされました。

ある若者が牧師になりたいと思いましたが、彼の国には神学校がなかったので、海外の二つの学校に願書を出しました。彼の両親は裕福ではありませんでしたが、什一と約束献金をささげていました。残念なことに、一つの学校は内戦によって閉校してしまい、もう一つの学校からは入学を許可されませんでした。失望した彼に、想像もしなかったことが起こりました。地元の教区事務所に招かれた若者は、ある男性を紹介されました。「あなたは本当に牧師になるために神学を勉強したいのですか？」という質問に、若者が「はい」と答え、その男性は神学校の学費を支払ってくれると言いました。若者は何が起きているのか信じられませんでした。その日彼は、神は差し出されたものを増やしてくださる、ということの意味を理解したのでした。

私たちの財産を増やしてくださる神の奇跡ゆえに、私たちは什一と約束献金によって神を礼拝するのです。

2月26日 一貫して信頼できる神

「…主が地の面に雨を降らせる日まで／壺の粉は尽きることなく／瓶の油はなくならない」(列王記上 17 章 14 節)

シュネムのやもめの油と小麦粉の物語は、神の思いやりは決して変わることがないということを力強く証ししています。三年半にわたる飢饉の間、毎日食卓には食べものがありました。神はやもめのエリヤへの行為に報いる約束を忠実に守られました。

ある家族が新しい国に移住しましたが、経済的な試練を経験しました。彼らは余分な出費をすべて省きましたがそれでも不十分でした。教会への献金を止めるか、息子のピアノ教室の登録をあきらめるか、決断すべき時がやってきました。どちらも経済的に改善するまでの一時的な決断でしたが、祈りつつ、彼らはピアノ教室をあきらめることを選びました。数日後の早朝、名前の書かれていない封筒が届きました。開けると、驚いたことに中には三か月間のピアノ教室の費用に十分なお金が入っていました。彼らは神の恵みの一貫性を経験したのでした。

時には献金をささげて神を礼拝することを止めるように誘惑を受けます。しかし、神の一貫した誠実さに、私たちの決断をお任せしましょう。今週も、神の一貫した恵みに応えて私たちは什一と約束献金をささげて礼拝しましょう。

3月5日 現代のワルド派

「十二人も一緒だった。…そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた」(ルカ8:1～3)

ガラリヤを回るイエスの公生涯最後の旅を、女性のグループが援助しました。その結果、教えと神の力を現すことによる宣教の進展が豊かに実を結びました。イエスの一行は国境の外側、異邦人の町々を旅し、フィリポ・カイサリアのはるか北まで出かけました。そこで、イエスは再びパンを増やす奇跡を行い、四千人の異邦人を養うことによって、ご自身がすべての人の「命のパン」であることを示されました。

伝道が困難な中東の人々に福音を届けるために働いている若者たちがいます。中世のワルド派の伝統に習い、学生として、仲間にイエスの愛とメッセージを届ける働きを行っています。「外国にいることは困難ですが、やりがいがあります。家族や友人が恋しくなるときもありますが、大学は驚くべき宣教地です。同じ年齢の友人の心が開かれ、神をシェアするたくさんの機会があるからです。」

什一と統合献金の一部はこのような若者たちを支えるために用いられます。什一と約束献金をささげることでこのような働きが前進するようあなたも参加してください。

3月12日 アドベンチスト・ワールド・ラジオ

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。…あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」(マタイ 28:19、20)

アドベンチスト・ワールド・ラジオ(AWR)は、世界中のラジオ放送局と地方のスタジオ、携帯電話伝道、アプリ、ポッドキャスト、健康メッセージ、インターネット伝道と共に、福音を届けています。

ラジオはまだほとんどの国で最大のコミュニケーション手段です。境界や壁を超えて人々の心に届き、宣教師が立ち入ることのできないところへ福音を伝えます。AWRの主なターゲットは「10/40の窓」と呼ばれる、北アフリカ、中東、アジアの、現在、福音メッセージに対して閉ざされた地域です。2021年、AWRによるオンライン講演「聖書の預言を紐解く」「地球の最後のカウントダウン」は、数十の言語で何百万もの人々が視聴しました。AWRには、毎日世界中から電子メールや手紙、メッセージが届いています。

AWRは50年以上、世界中に良き知らせを放送してきました。現在は、百か国語以上で放送していますが、さらに500以上の言語・方言で伝道的メッセージ、健康メッセージを放送する計画が進んでいます。今日私たちがささげる約束献金(統合献金)によってこの働きを支えましょう。

3月19日 目に見えない運転手

「主はわが巖、わがとりで、わが救い主、身を避けるわが岩、わが神。わが盾、わが救いの角、わがやぐら」(詩編18編2節、新改訳)

少年の頃に油を注がれてから高齢になるまで、ダビデ王は多くの危険を越え、長く危うい旅を歩きました。ダビデは、神の守りを感謝し、巖、とりで、救い主として、礼拝しました。

ある朝早く、マダガスカルの大工師家族は、車で12時間ほどかかる場所で行われる集会に参加するため、何人かの友人と共に出発しました。途中で昼食だけ取ると、すぐに出発しました。太陽が西に傾き始めたころには、会話はほとんどなくなりました。目的地を目指して運転手がスピードを上げた次の瞬間、木の枝がフロントガラスを直撃し、前が全く見えなくなったのです。車は道路を外れて止まりましたが、車に乗っていた人は奇跡的にかすり傷を負っただけでした。車は道路脇に植えられていた二本の木の間にぎりぎりで通り抜け、ちょうどそこだけ路肩に溝がない場所に止まったのです。目に見えない運転手が介入しなければ大事故になっていたことでしょう。

ダビデと大工師家族の神は今日も働いておられます。今日、什一と約束献金をささげることを通して、偉大な救い主を礼拝しましょう。

3月26日 無限の与え主

「わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてください」(フィリピの信徒への手紙4章 19 節)

ある日、アブラハムは神からサラを通して息子が与えられ、この二人目の息子に祝福が注がれると告げられました。アブラハムは「どうか、イシュマエルが御前に生き永らえますように」と神に嘆願しました。彼は、もしイサクが祝福されるならイシュマエルには祝福は残っていないと不安になったのです。しかし神は両方の息子とすべての人に十分な祝福を注がれるという確信をアブラハムに与えました。

神の祝福が不足しているというおかしな考えによって、人々は奇妙な行動をとってきました。「もし、誰かが受け取るなら、私は受け取ることができないか、受け取ったとしても少ない」という考えは、嫉妬、争い、恨みを作り上げます。また、「もし与えたり、分け合ったりしたら、私には少ししか残らない。持っているものを失ってしまう」と考えて、気前の良さを失い、自己中心に生きようとします。しかし、これらは、神の無限の豊かさという現実を無視した誤った考え方なのです。

今日、什一と約束献金をささげることによって、神の無限の豊かさを信じていることを示しましょう。